

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期におけるわが国の経済は、急激な原燃料価格の高騰による諸物価の上昇や、米国のサブプライムローン問題に端を発した信用収縮の影響等に加え、インフレ懸念が深まる中で、企業業績、個人消費とも先行き不透明感を強めながら推移してまいりました。

当社の主力とする調剤業界におきましては、医療費の抑制を目的とした医療制度改革が推進されております。長期投薬の増加やジェネリック医薬品の使用促進が進められる中で、薬局調剤医療費の伸び率は鈍化傾向にあり、業界を取り巻く経営環境は更に厳しさを増すことが予想されます。

このような経営環境の中で、当社の調剤薬局事業におきましては、新規店舗の売上高に加え、調剤子会社及び既存店が順調に推移したことから、売上高3,762百万円(前年同期比16.9%増)、営業利益234百万円(前年同期比8.6%増)となりました。医薬品卸事業におきましては、医療費抑制政策等の影響により、売上高136百万円(前年同期比4.9%減)、営業利益6百万円(前年同期比36.1%減)となりました。介護事業におきましては、子会社の株式会社ヘルスケア一光にて、運営を開始した有料老人ホーム2施設が計画どおり推移した結果、売上高68百万円(前年同期比81.4%増)、営業利益6百万円となりました。また、不動産事業におきましては、不動産取得税7百万円の支出により、売上高50百万円(前年同期比2.1%増)、営業利益22百万円(前年同期比24.9%減)となりました。

以上の結果、当第1四半期の業績は、売上高4,017百万円(前年同期比16.5%増)、営業利益159百万円(前年同期比12.0%増)、経常利益130百万円(前年同期比13.1%増)、四半期純利益は59百万円(前年同期比1.7%増)となり、増収増益となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期における総資産は、10,112百万円となり、前連結会計年度末と比較して、233百万円の減少となりました。

流動資産の合計は4,218百万円となり、前連結会計年度末と比較して180百万円減少いたしました。これは主に、現金及び預金の減少358百万円と、売上増加に伴う売掛金の増加102百万円によるものです。

固定資産の合計は5,893百万円となり、前連結会計年度末と比較して53百万円減少いたしました。

流動負債の残高は3,802百万円となり、前連結会計年度末比272百万円減少し、固定負債の残高は3,586百万円となり、前連結会計年度末比37百万円増加いたしました。負債合計で234百万円の減少となった主な要因は、社債の償還500百万円と買掛金の増加187百万円によるものです。

純資産の合計は2,723百万円となり、前連結会計年度末と比較して1百万円増加いたしました。これは主に四半期純利益59百万円と配当金の支払39百万円によるものです。この結果、自己資本比率は26.9%となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当四半期連結会計期間における現金及び現金同等物の残高は1,523百万円となり、前連結会計年度末と比較して345百万円の減少となりました。

営業活動の結果得られた資金は、381百万円となりました。主な増加要因は、税金等調整前四半期純利益129百万円、仕入債務増加額159百万円等であり、主な減少要因は、売上債権の増加額107百万円等であります。

投資活動の結果使用した資金は、10百万円となりました。主な内訳は、新規出店に伴う有形固定資産の取得等による支出19百万円によるものです。

財務活動の結果支出した資金は、486百万円となりました。主な要因は長期借入れによる収入300百万円及び長期借入金の約定返済235百万円と、社債の償還による支出500百万円等によるものです。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

通期の業績見通しにつきましては、平成20年4月16日公表の「平成20年2月期決算短信」での業績予想に変更はありません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用

影響額が僅少なものにつきましては、一部簡便的な方法を採用しております。

(3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更

該当事項はありません。